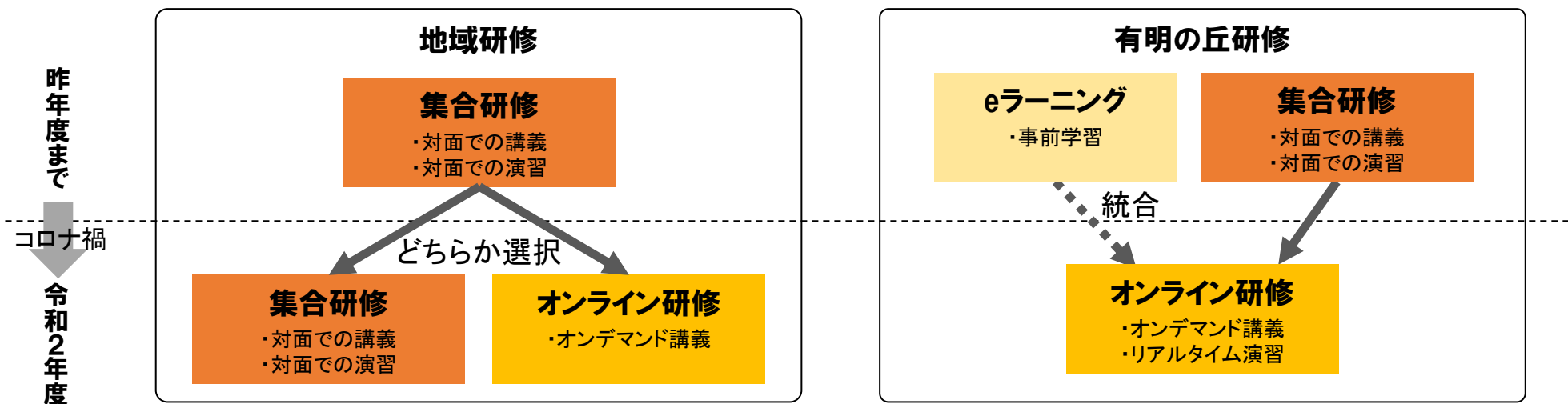


防災スペシャリスト養成研修のこれまでの取組みと今後の方向

今年度は、コロナ禍の影響により、有明の丘研修および地域研修ともにオンライン研修を取り入れた。
昨年度までと今年度の研修の実施形態の違いは下記の通りである。



今年度のアンケート等の結果から、オンライン研修の利点・欠点をまとめると下記の通りである。



今後の防災スペシャリスト養成研修の方向性

- 受講者拡大のため、オンライン研修を取り入れる。
- 人的ネットワーク構築のため、集合研修も合わせて実施する。

今後の防災スペシャリスト養成研修の方向性を踏まえ、令和3年度は下記の組み合わせで研修を実施する。

令和3年度



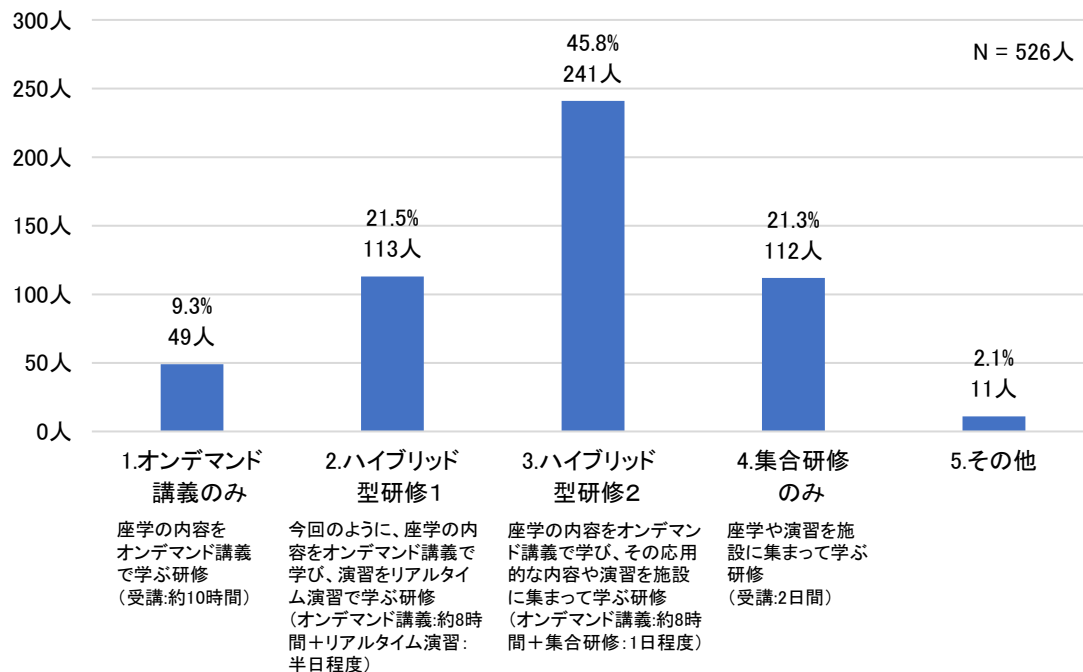
今後、オンデマンド講義、リアルタイム演習、対面での演習、それぞれの利点を生かして組み合わせた研修を構築し、防災スペシャリスト養成研修のあり方を検討していく。

(参考) 今後の有明の丘研修に希望する研修の実施形態

有明の丘研修の受講者に、今後の有明の丘研修に希望する研修の実施形態についてアンケートを行ったところ、オンデマンド講義と集合研修の組み合わせである「3.ハイブリッド型研修2」を希望する受講者が最も多かった。

● 受講者が希望する研修の実施形態

今後の有明の丘研修は、どの実施形態が望ましいですか？



● 「5. その他」の実施形態の内容

オンデマンド講義、集合研修の組み合わせ

- ・オンデマンドと集合研修の選択制。
- ・基礎的内容はオンデマンド研修、応用的・実践的内容と人的ネットワークの構築を集合研修で実施。

オンデマンド講義、リアルタイム演習、集合研修の組み合わせ

- ・オンデマンド講義で座学、リアルタイム演習で顔合わせを含めた基礎的な演習、集合研修で発展した演習を実施。
- ・ハイブリット型研修2をベースに応用的な内容や演習は、施設集合とリアルタイム演習で同時開催。
- ・研修コースや隔年開催などで開催を分け、集合研修とハイブリッド型研修の両方を開催。
- ・オンデマンドは常時受講可、演習を集合研修で1日実施。Web演習なら2日実施。

その他

- ・全てをオンラインのリアルタイム講義で実施。
- ・オンライン研修でも集合研修でも人的ネットワークの構築の取組みを増やした研修の実施。
- ・危機管理業務に就いている間に「防災スペシャリスト」資格を取得できるよう、1年～1年半くらいで全講習を受講可能にする。

● 研修の実施形態を選択した理由(視点・観点)

選択肢1～5のうち、なぜその実施形態を選択したのか、その理由(選択したときに特に重要視した視点・観点等)をお書きください。(複数回答あり)

1 オンデマンド 講義のみ	・ <u>オンライン研修は場所や時間の制約が少ない(23人)</u> ・ 参加へのハードルが低く多くの者が参加できる(4人) 等
2 ハイブリッド型 研修1	・ <u>オンライン研修は場所や時間の制約が少ない(56人)</u> ・ 参加へのハードルが低く多くの者が参加できる(6人) ・ 人的ネットワークの構築が望める(6人) ・ 感染症対策(4人) ・ その場で質問、相談できる(2人) 等
3 ハイブリッド型 研修2	・ <u>集合研修は人的ネットワークの構築が容易(133人)</u> ・ <u>オンライン研修は場所や時間の制約が少ない(36人)</u> ・ <u>活発な議論ができる(31人)</u> ・ 発言しやすい(7人) ・ 感染症対策(5人) ・ その場で質問、相談できる(2人)等
4 集合研修 のみ	・ <u>集合研修は人的ネットワークの構築が容易(55人)</u> ・ <u>集合研修の方が研修内容に集中できる(23人)</u> ・ <u>活発な議論ができる(10人)</u> ・ 業務時間中にオンライン受講の時間が確保できない(4人)
5 その他	・ <u>集合研修は人的ネットワークの構築が容易(6人)</u> 等